

GW2050PROJECTSシンポジウム

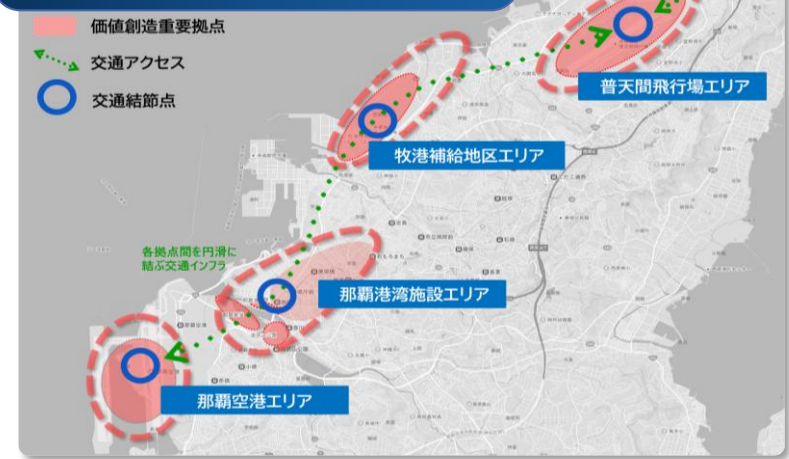
検討資料

GW2050 PROJECTS 推進協議会

2026年3月23日

- GW2050 PROJECTSは、成長著しいアジアに近接する沖縄の立地優位性等を背景に、今後広大な基地が返還されるポテンシャルを「沖縄の進化」に変えるチャンスと捉え、那覇空港から普天間飛行場に至るエリアを価値創造重要拠点と位置づけ、国際競争力を高め日本を牽引する沖縄の経済発展を目指す「地域成長モデル」
- 3つの基地返還予定地を、世界に選ばれる沖縄を目指した中心的なフィールドとして、沖縄県全体での役割・機能分担を見据えた機能的なまちづくりに繋げていく

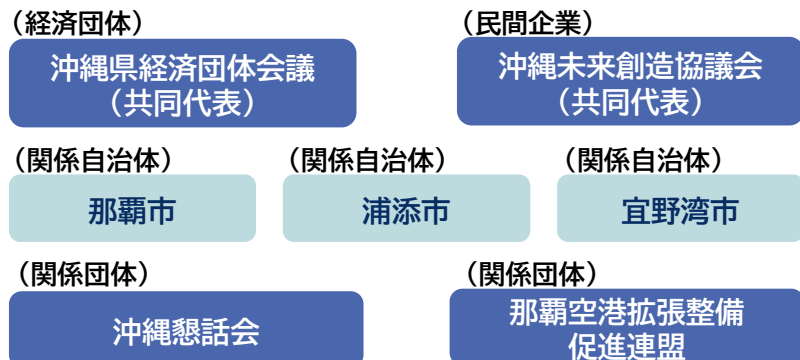
価値創造重要拠点の全体像(イメージ)



個別の跡地利用計画ではなく
一体的な成長戦略を描くことで、
魅力的な将来像を描き、早期の基地返還を実現

推進体制

GW2050 PROJECTS 推進協議会



検討テーマ




沖縄の課題

| | | | |
|-----------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------|
| 低所得水準 全国と比較して7割にとどまる所得水準 | こどもの貧困 教育機会の喪失と貧困の連鎖 | 交通渋滞 年間1,500億円相当の経済機会損失 | 離島の過疎化 慢性的な人口減少 |
|-----------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------|

2050年の世界の産業潮流と沖縄らしさを踏まえた成長産業を創出し、
沖縄の課題解決を図りながら地域の成長モデルを構築

成長産業の創出

| | | |
|------|--|--------------------------------|
| 既存産業 |  【高付加価値化・市場拡大】 観光需要増を起点とした既存産業の拡大 | 沖縄独自の商材の高付加価値化と域外展開 |
| | | クルーズ船への県内生産品積み込み |
| 新興産業 |  【ブルーエコノミー】 自然・海洋資源を活かした情報集積拠点 | 食を支える陸上養殖 |
| | | 海洋バイオものづくり |
| | | マリナー/船舶MRO |
| | | 海洋研究・資源活用 |
| |  【先端医療】 高齢社会・離島を支え、住まう価値の向上 | 医療データを活用した創薬・デジタル医療拠点 |
| | | 遠隔医療の先行実装フィールド |
| |  【航空・宇宙】 日本をリードするフロンティア領域の開拓 | リモートセンシングプラットフォーム (低軌道衛星、HAPS) |
| | | 航空関連産業クラスター形成 |

成長目標



- GW2050 PROJECTSでは、4つの柱(4 Pillar Initiatives)と、それらの柱を支える3つの基盤分野(3 Bases)における施策推進を通じて、世界と日本のゲートウェイとして日本を牽引し、真に自立した沖縄経済の実現を目指していく

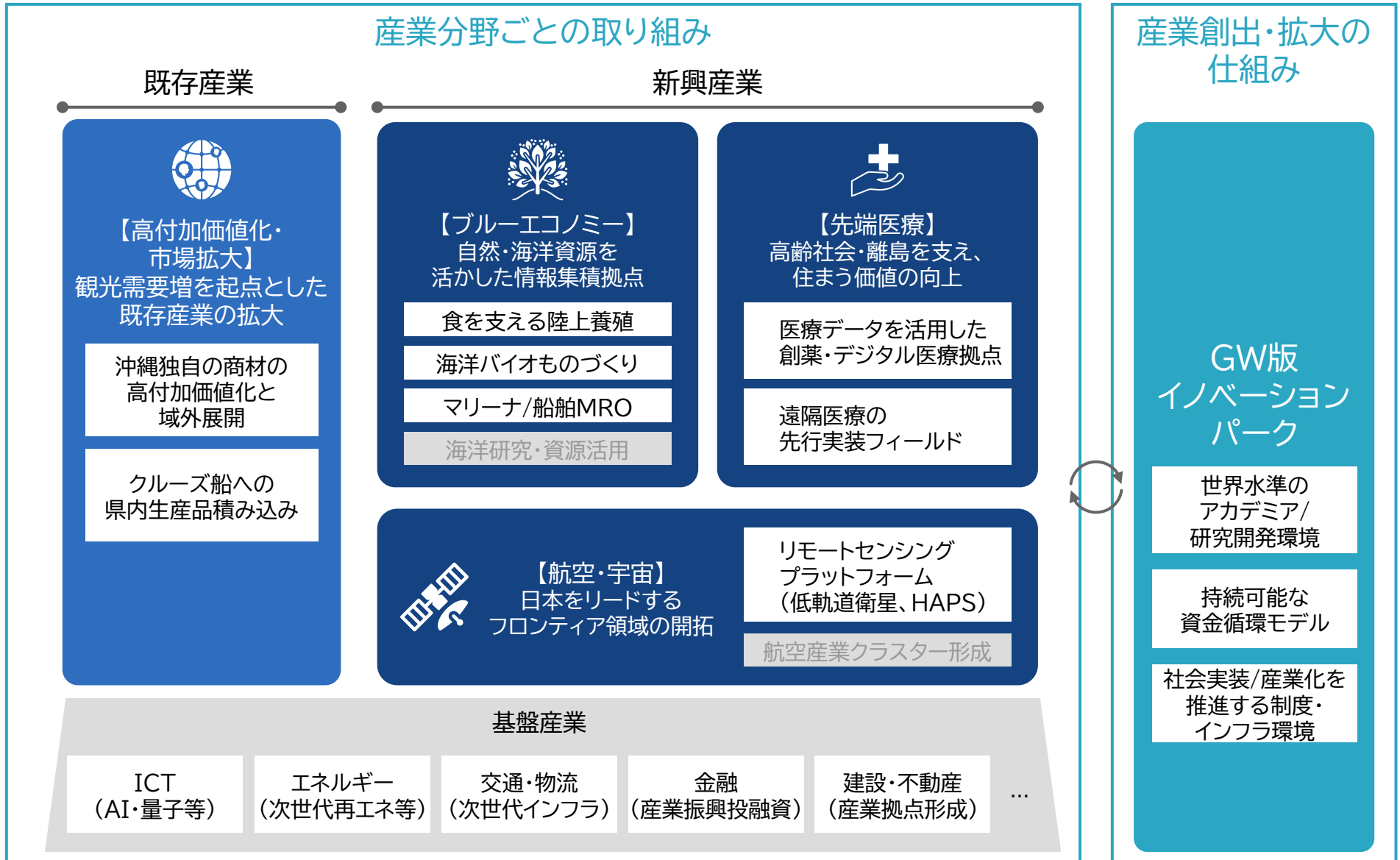


➤ 次年度以降、成長戦略の早期実行に向けて以下の打ち出し策を推進

戦略方針

| | | | | |
|-----------------------------|----------------------|------------|-----------------|----|
| 4つの柱 (4 Pillar Initiatives) | 基地跡地のまちづくりに向けた仕組みづくり | | まちづくり計画への反映 | 1 |
| | | | 早期まちびらきに向けた制度 | 2 |
| | 成長産業創出の仕組みづくり | 既存産業 | 高付加価値化 | 3 |
| | | | 市場拡大 | 4 |
| | | ブルーエコノミー | 陸上養殖 | 5 |
| | | | 海洋バイオ | 6 |
| | | | マリーナ/MRO | 7 |
| | | 先端医療 | 創薬(CRO機能誘致) | 8 |
| | | | 遠隔医療 | 9 |
| | | 航空宇宙 | リモートセンシング | 10 |
| | | | HAPS | 11 |
| | | イノベーションパーク | アカデミア連携 | 12 |
| | | | 資金循環モデル | 13 |
| | | | 制度・インフラ環境 | 14 |
| | 空港・港湾機能強化 | | 那覇空港機能強化 | 15 |
| | | | 港湾機能強化 | 16 |
| | | | 物流機能強化 | 17 |
| | 基幹交通の整備 | | BRTの早期実現 | 18 |
| 3つの基盤分野 (3 Bases) | 人材育成 | | 経営マネジメント能力向上 | 19 |
| | | | 観光経営マネジメント能力向上 | 20 |
| | | | 成長産業を牽引する専門人材育成 | 21 |
| | | | グローバル教育体系構築 | 22 |
| | | | 外国人活躍環境整備 | 23 |
| | カーボンニュートラル | | 次世代再エネ技術 | 24 |
| | | | 水素・アンモニア等利用環境 | 25 |
| | | | 地域資源活用 | 26 |
| | 次世代プラットフォーム | | 官民連携プラットフォーム | 27 |
| | | | 次世代通信 | 28 |

➤ 成長産業創出に向けて、産業分野、産業横断の2つの観点から仕組みづくりに取り組む





レジデンス
(研究者・家族)

R&D拠点

スタートアップ
集積拠点

関連産業
集積

世界水準のアカデミア・研究開発環境

持続可能な資金循環モデル

社会実装/産業化を推進する制度・
インフラ環境



最先端
R&D拠点

大学
研究機関

国内外研究者
ネットワーク

研究・開発
資金

スタートアップ

事業成長
投資

制度
インフラ

実証
フィールド

産学官
連携

- GW2050の「まちづくりの考え方」は、“魅力的なコア機能”を起点に世界中からヒト・モノ・カネを呼び込み、まちが持続的に発展・進化することを目指す

3拠点の将来像策定に向けた検討プロセス

① 世界の成長都市から共通する成功要因を学び、3拠点のまちづくりに取り込む

- 基地跡地は埋め立て事業や一般的な再開発とは違い、将来の地域経済構造を再設計する戦略的機会であり、先進都市の成功要因を取り入れることが重要

先行都市の成功要因

産業基軸のまちづくり

産業と連動した人材育成

賑わいや「まち」の魅力を高める仕組み

② 沖縄全体の地域特性を踏まえた3拠点が担うべき役割

- 3つの基地跡地は個別開発としてではなく沖縄全体の地域特性を踏まえて役割を整理し、一体的な都市としてイノベーション創出と地域経済を牽引する成長拠点とすることが重要

③ 将来の利用者像(ペルソナ)から考える必要な都市機能

- 将来の基地跡地は、国内外から多様な人々が集い新たな価値を生むまちを目指し、その利用者像(ペルソナ)を設定して必要な都市機能を整理

④ 機能分担(コア機能・周辺機能)

- 世界で競争力のある領域と都市機能を踏まえ、3つの基地跡地が連携・機能分担する一体的な成長戦略により地域発展を実現



普天間飛行場

【グローバル人材の育成と先端医療のイノベーション拠点】



牧港補給地区

【グローバルな都市型リゾートエリアと海洋産業拠点】



那覇港湾施設



【沖縄の玄関口としてのグローバルビジネスと迎賓拠点】

➤ 「沖縄の玄関口としてのグローバルな迎賓拠点」にふさわしい都市のイメージ

新しい沖縄の玄関口を象徴する都市の広場



賑わいが連続するウォーターフロントの回遊空間



グローバルビジネス拠点の迎賓空間



- ▶ 「グローバルな都市型リゾートとブルーエコノミー系のイノベーションパーク」にふさわしい都市のイメージ

交通結節点と海洋環境を結ぶ象徴的な都市軸



サンセットビューを望む都市型レジデンシャルリゾート



海洋産業などの体験・提供施設



※上記はイメージ提案であり、今後具体的な協議検討が必要

▶ 「グローバル人材の育成と先端医療系のイノベーションパーク」にふさわしい都市のイメージ



緑と歴史に恵まれた豊かな暮らしのイメージ



中南部圏の交通結節点となる交通センターターミナル



※上記はイメージ提案であり、今後具体的な協議検討が必要

- 県内総生産11兆円に拡大する際には、観光・ビジネス需要の増加により年間旅客数は3,600万人規模まで増加すると見込まれることから、**空港が成長のボトルネックとならないよう空港機能の強化が求められる**

2050年度県内総生産

11兆円

(24年度比2.2倍)

県内
総生産
内訳

既存産業
8.3兆円(1.7倍)

観光関連¹
3.0兆円(5.3倍)

新興産業
2.7兆円

人口
影響

県内総人口
167万人(1.1倍)

2050年度年間旅客数²

3,600万人

(24年度比1.7倍)

目的別

観光
2,650万人(1.6倍)

ビジネス
950万人(2.0倍)

居住地別

県外日本人
1,650万人(1.3倍)

県内日本人
700万人(1.2倍)

外国人
1,250万人(4.2倍)



1:観光関連は、観光需要増加により喚起される周辺産業への波及効果を含む。2:乗降客数ベース
注記: ()内の数値は全て2024年度比

- 沖縄の海と空に開かれた国際ゲートウェイとして、世界中から人々を迎え入れる空の玄関口
那覇空港は、世界最高水準の国際リゾート・ビジネス空港を目指す



※上記はイメージ提案であり、今後具体的な協議検討が必要

- 沖縄がグローバルで勝てる視点で将来の交通ビジョンを描きながら、早期に県民生活の利便性と県全体の生産性向上を目指す手段としてのBRT構想と、その先の次世代基幹交通を検討

GWが目指す交通機能とアプローチ

中南部メガリージョンの実現による県民の生活利便性と、生産性向上による更なる経済成長



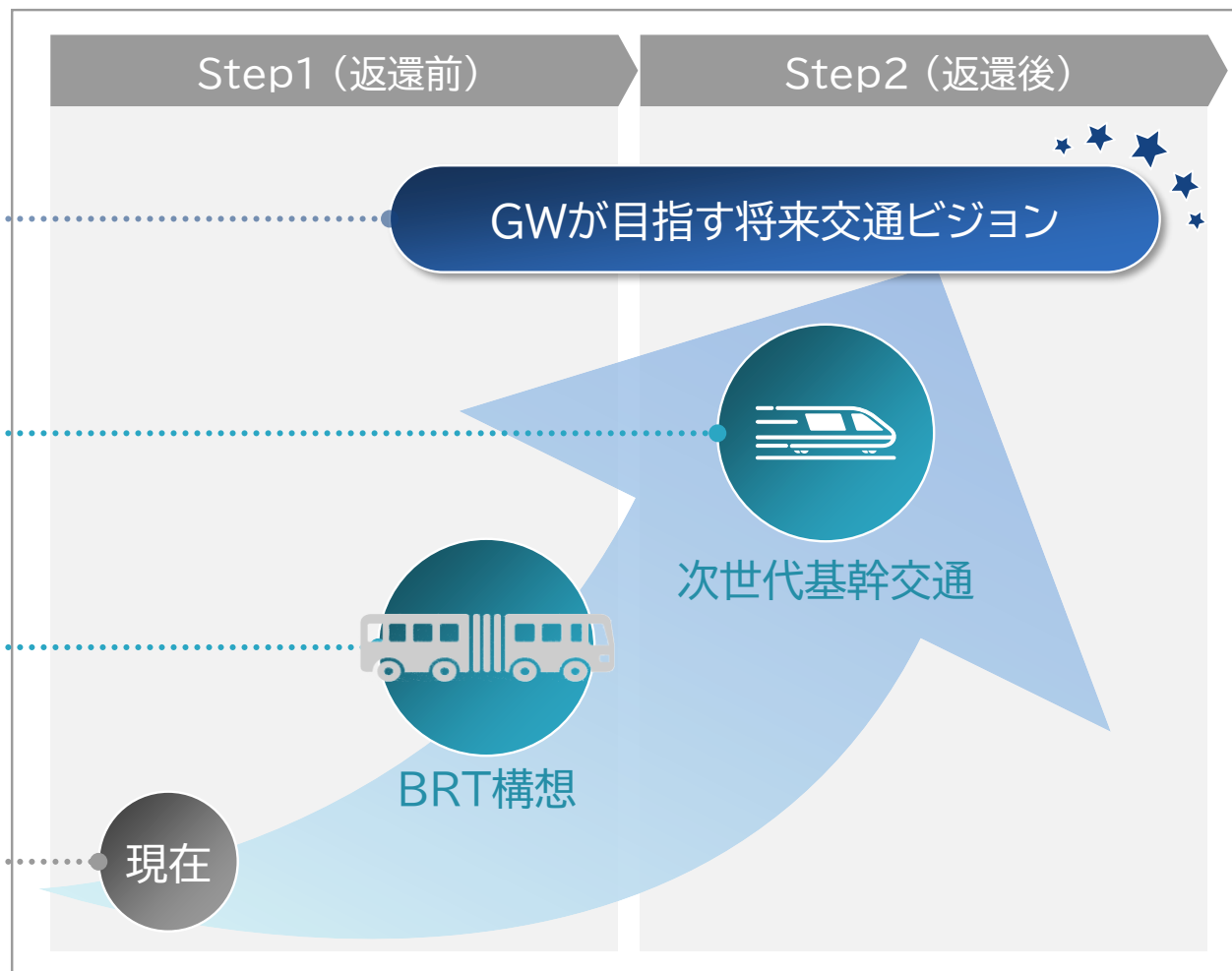
中南部都市圏を30分以内に接続する次世代基幹交通の実現



国内最高水準のBRT早期実現による交通渋滞解消と次世代基幹交通実現に向けた機運づくり



交通渋滞深刻化による年間1,500億円相当の経済損失



- 利用者の目的に応じて最適な交通手段を選択できる環境の構築が重要
- 基幹交通で広域移動し、現地でレンタカー等により乗り換えることで、那覇市内での自動車利用の集中を抑制し、交通渋滞の緩和につながる
- 移動の効率化により生まれた時間を地域内の回遊や滞在に充てることで、沖縄の魅力向上が期待される

観光・ビジネスの主な二次交通

沖縄本島

北部・中部

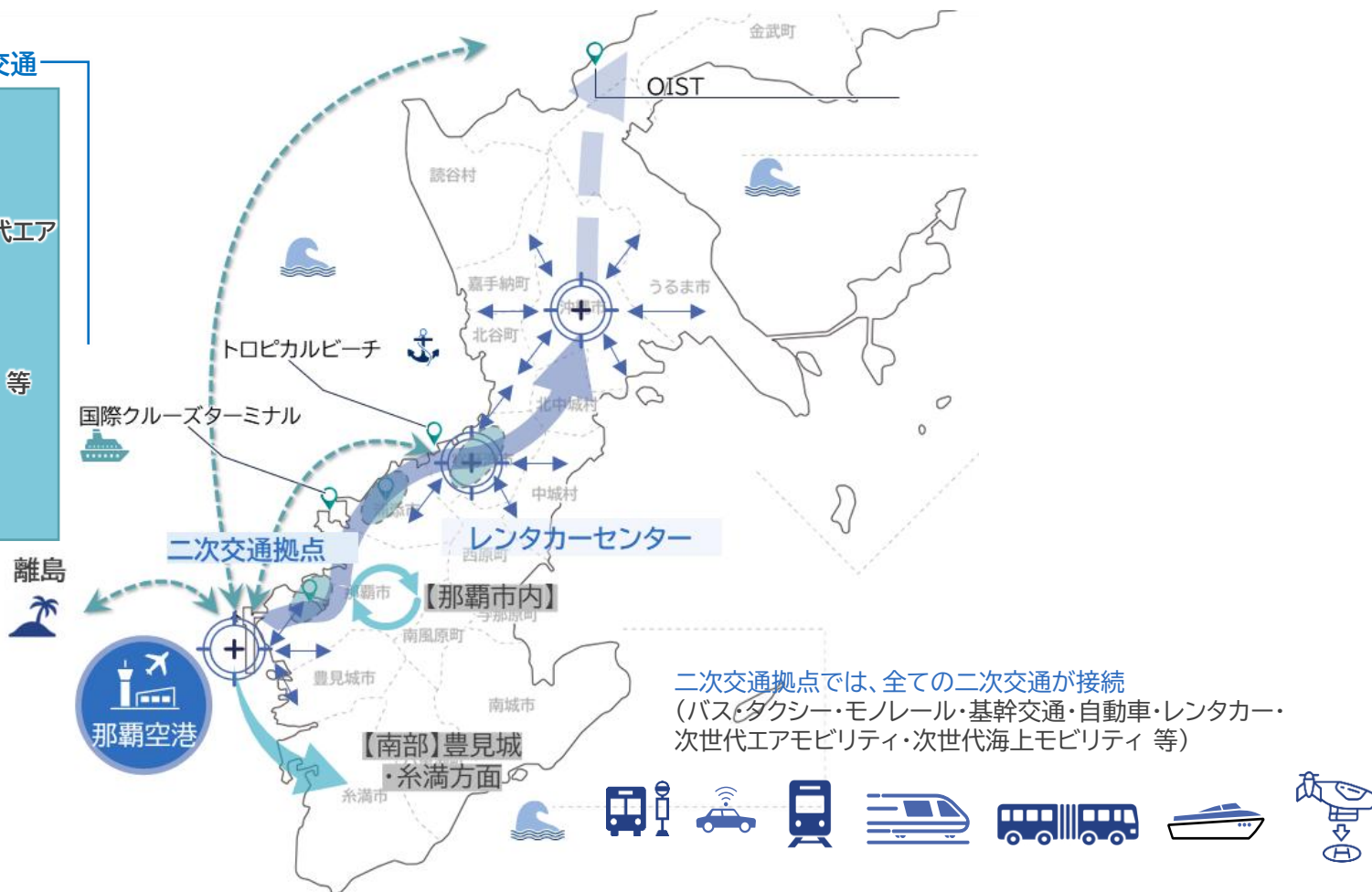
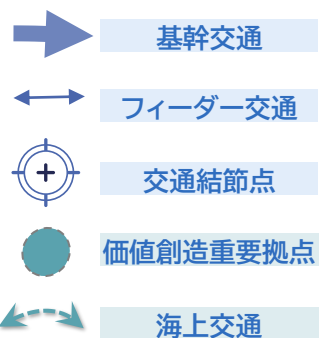
基幹交通・レンタカー・次世代エアモビリティ等

那覇市内

基幹交通・モノレール・LRT等

南部

基幹交通・レンタカー等



➤ 経済界が主体的にアカデミアや行政と連携し、人材育成に取り組む

国際MBAプログラム

- 社会人が経営・戦略・国際ビジネスを体系的に学べる環境を整備(MBAの誘致)
- 長期的な視点で地域のビジネスリーダーを育成

ビジネススキル育成プログラム

- 現場でのAI活用やDXなど、生産性向上に直結するビジネススキルを短期集中で習得できるプログラムを構築する
- 企業の即戦力人材を育成

成長産業と連動した専門教育

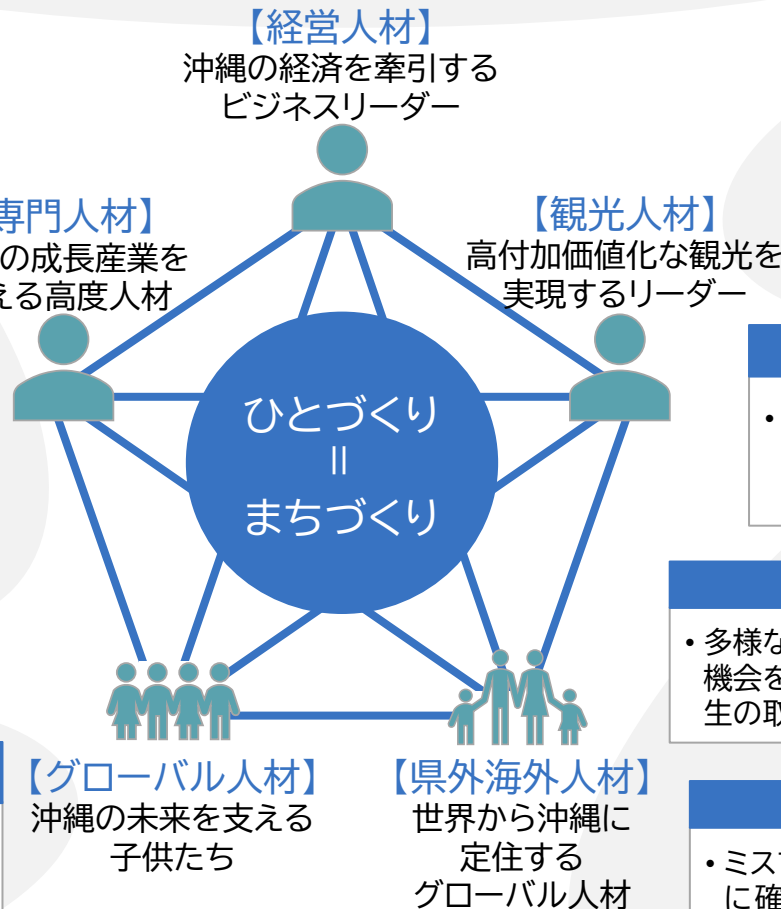
- 海洋・先端医療・航空宇宙など、産業ニーズと連動した成長産業に必要な専門人材を育成できる環境を構築

AI・データ技術者育成

- 産業スコープと連動したAI開発・データ分析などの専門教育を受けられる環境を整備し、技術者のAI開発人材を育成

グローバル教育体系構築

- 英語・国際的素養・沖縄アイデンティティを初等教育から体系的に育成し、デジタル活用や国際交流を取り入れた教育が実現できる仕組みをつくる



観光経営人材育成プログラム

- 観光の高付加価値化を担う中核人材に、経営・商品開発・データ活用・地域連携などを実践的に学ぶ機会を提供

ワンストップ受入体制整備

- 外国人材が安心して働き暮らせる受入インフラを整備する(医療・通信・口座・免許などの手続きを一元化する支援窓口など)

コミュニティ形成支援

- 多様な人材が地域とつながるための交流機会を提供し、定住につながる多文化共生の取り組みを進める

現地での人材確保

- ミスマッチを防ぎ必要な人材を計画的に確保するために、生活・文化・労働法などを事前教育を行う